

# ポイントゼロ

## プロローグ

ルクシオールがEDENに呼ばれたという。レスターはその報告を聞いてタクトにその理由を問いただしていた。

噂の暗黒宙域を調査したいのだけど、危険そうだと。エルシオールはもう無いし、ここはルクシオールにお願いしたいとタクトは答えた。それにしても大げさだろう？とレスターは思っていた。

## タクトのココへの説明

ココはタクトに、とある暗黒宙域に行ってみて欲しい、そこで既に調査しているちとせの話聞いて欲しいと言われる。問題の宙域は「ゼロ地点」と呼ばれる未調査宙域。エオニア皇子が黒き月を発見したと噂されている場所だった。ココは嫌な予感を感じながらも、しぶしぶ指定の場所に行く。

暗黒宙域の前でココたちは、暗黒宙域の外で内部の地図が発見された事。地図には、中に入れというメッセージが書かれている事をちとせから聞く。

## 暗黒宙域

畏かもしれないと疑いつつ、地図の通り、暗黒宙域へと向かうルクシオール。偵察していたアニスが怪しい影を発見する。

怪しい影から通信が発信される。識別信号はエオニア皇子のものだった。

## 少年ブリンクとエオニア・トランスバール

エオニア皇子の識別信号を持った船のパイロットは自ら名乗った。少年の名はブリンク。

少年はエオニア皇子の事を知っていた。昔、瀕死のエオニアがやってきたこと。助けたら宇宙船をくれたこと。その船に今乗っている事。これで外宇宙に出たいと思っている事。

話の途中で何者かに襲われる。攻撃元を追跡すると、無人艦が現れた。

## 隠れ里マグメルン

無人艦隊を倒したエンジェル隊。

何者かと聞くと、村の守り神様だとブリンクは言う。でも、あれは化身みたいなもので、いくらでも沸いてくるから気にしなくてもいいよ。と。

それよりも、エオニア皇子を知っている事、エンジェル隊がとても強いことを知って、ブリンクがますます喜ぶ。この人たちなら外の世界に連れて行ってってくれるかもしれない。ゆっくり話がしたい、村においてよと誘われる。

村の名はマグメルン。村の中だけが緑で、外は砂漠という異様な場所だった。

## 少女ベルベットとの出会い

マグメルンに到着してすぐ、茂みから少女が現れた少女に見つかってしまう。

怯える少女と、弁解するブリンク。エンジェル隊との穏やかな会話の中で、ようやく少女を説得するのだった。少女の名はベルベット。

## 守り神ロックランさまと少女

親に見つかりたくないから、と、ブリンクは隠れ家を案内した。部屋には祭壇があった。

祭壇のそばにある戸は何かと聞くと、長老の部屋につながる道らしかった。その戸は長老にしか開けられないらしい。ただ、タピオは気になったようだった。

ベルベットが祭壇に祈りを捧げた。

## 長老ルーとヴァルファスクの語り

タピオが扉に触れると、開いた。扉はVチップで制御されていた。

奥には老婆がいた。老婆はルーと名乗った。

ここはヴァルファスクの隠れ里かと問うと、ならば全員が扉を開けられるはずだろう？とルーが言う。

村の民はVチップを制御できない。ヴァルファスクではないのだ。

一方でヴァルファスクと人間とが行動を共にしている事に長老ルーが驚く。さらに、リコを除くエンジェル隊に至っては、アブソリュートの向こう側の人間と知る。アブソリュートが解放されているのか、と、長老はとても喜んだ。

機嫌を良くした長老は種明かしをする。この村の民は、ハーフだよ、私らの子供達さ、と。

人間とヴァルファスクの恋人たちが逃げた先がこのマグメルンだった。生まれた子らは純粋なヴァルファスクではない、純粋な人間でもない。だからEDENとヴァルファスク、どちらの世界にも居られなかった。この地に逃げ、隠れて生きるしかなかったのだ、と。

## 祭壇の暴走

マグメルンの歴史は、EDENとヴァルファスクの争いの歴史でもあった。

長老の話にいたたまれなくなったココが部屋を出る。祭壇の部屋に戻ると、少女はまだ祈りを続けていた。

ココが声をかけると、少女がココに懇願した。ブリンクを村の外に連れて行かないでほしい。ベルベットはブリンクを想っていたのだった。

その時、祭壇が動き出す。ただの祭壇付きの部屋だと思っていた建物は、宇宙船だった。宇宙船は長老の部屋を切り離し、少女とココを抱えて、宇宙に飛び出した。

## 闇の月

何かが村から飛び出したことは、ルクシオールも捉えていた。

エンジェル隊は宇宙船が飛んでいった方向に向かう。

そこには、「影の月」とよく似た天体があった。

長老は、それこそがロックランさまの正体だと語る。この闇の月こそが、マグメルンを外敵から守ってきたのだった。

## ココ救出作戦

ココは闇の月の中で間違いないようだった。デュアルクロノブレイクキャノンを持ってきているが、月を破壊してはココが危険になる。実質使用不可能だった。

エンジェル隊でなんとかすると申し出るカズヤ。エンジェル隊で無人艦隊を退けつつ、カズヤのホーリーブラッドのフォトンダイバーで影の月に突入するつもりだった。

タピオが、その仕事はカズヤにさせられないと言う。厳しい戦いでカズヤが抜けるのは戦力の低下が無視できない。ロゼルが名乗り出て、突入役を引き受けた。

ならば私も乗せてほしいと、タピオはロゼルに言う。

ロゼルとタピオを乗せたホーリーブラッドが、影の月に突入する。

## 遺跡

無事に突入を果たしたロゼルとタピオ。そこでタピオはココとの再会を果たす。

闇の月の中には遺跡があった。ココとタピオ、種族が異なる二人が共にあることを認識して、扉が開く。

闇の月の外でも異変が起こった。闇の月と無人艦隊は動きを止めた。

ココとタピオが向かった奥には碑があった。ここをゼロ地点を定めること、そしてヴァルフアスクと人間とが友好関係である事を誓った碑、そしてお互いの代表、そこにはシャトヤーンとゲルンの名があった。

## 旅立ち

事件は無事に解決し、ルクシオールはマグメルンの村人と別れの挨拶をしていた。

ブリンクが前に出る。ココはブリンクを連れて行くかまだ悩んでいたが、連れて行くこと決めた。

ココの判断を聞きベルベットが号泣する。ブリンクはベルベットを抱きしめ、旅立ちの挨拶をする。

## エピローグ

ルクシオールが帰還の途についたと、タクトとレスターはUPW本部で聞いた。タクトは、かつて、エデンのライブラリとヴァルフアスクから齎された情報から、ゼロ地点に「EDENとヴァルフアスクの双方にとって都合が悪いものが隠れている」と推測していた。

だからココとタピオにわざわざ行かせたというタクト。そんな酷いことするなよとレスターが呆れた。